

聖書日課 『からし種』 2022.10.9－10.16

<p>10月9日 (日) 出エジプト 27章</p>	<p>「常夜灯は臨在の幕屋にある掟の箱を隔てる垂れ幕の手前に置き、アロンとその子らが、主の御前に、夕暮れから夜明けまで守る」(21節)。祭司は常夜灯のともし火を守る役目をいただいた。主ご自身が「まどろむことなく、眠ることなく」(詩編 121:4) 彼らを見守ってくださるから。今も世界の深い闇の中に、主のまなざしを覚える役割を私たちはいただいている。</p>
<p>10日 (月) 出エジプト 28章</p>	<p>「また、純金の花模様の額(ひたい)当てを作り、その上に印章に彫るように『主の聖なる者』と彫りなさい」(36節)。祭司の祭服には「威厳と美しさ」(2節)が添えられていた。彼ら自身の威厳ではない。礼拝という「神と人に仕える働き」の威厳である。「主の聖なる者」とは「主のもの／主に属するもの」の意味だが、この言葉を額(ひたい)につけることの重さを想う。</p>
<p>11日 (火) 出エジプト 29章</p>	<p>「彼らは、わたしが彼らの神、主であることを、すなわち彼らのただ中に宿るために、わたしが彼らをエジプトの国から導き出したものであることを知る」(46節)。主なる神はイスラエルの間に宿り、共に旅をし、朝夕ごとに語りかける方(42節)。それゆえ祭司の役割は、毎日献げものをささげ、主の語りかけに聴くこと。今日、共に歩まれる主の言葉をまず求めたい。</p>
<p>12日 (水) 出エジプト 30章</p>	<p>「毎朝ともし火を整えるとき、また夕暮れに、ともし火をともしときに、香をたき、代々にわたって主の御前に香りの献げ物を絶やさぬようにする」(7－8節)。祭司の大切な役割の一つが朝夕に香をたいて、香りを絶やさぬこと。それは主なる神をたたえる祈りと賛美をささげていくこと。日々、主から与えられる恵みを数えて、唇に賛美をのせて歩みたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.10.9-10.16

<p>13日 (木) 出エジプト 31章</p>	<p>「わたしは、心に知恵あるすべての者の心に知恵を授け、わたしがあなたに命じたものをすべて作らせる」(6節)。礼拝に用いるすべての祭具、机や燭台や祭壇、祭司の祭服などをつくる職人たちの働きは、神から与えられる知恵なしにはできないもの。細部のデザインにも、人間の知恵ではなく、神の知恵を尋ね求めていく信仰を大切にすることができるように。</p>
<p>14日 (金) 出エジプト 32章</p>	<p>「さあ、我々に先立って進む神々を造ってください。…あのモーセがどうなってしまったのか分からないからです」(1節)。モーセを待ち切れず、イスラエルの民は「我々に先立って歩む神々」を求めた。神の働きを待つことができずに、目に見える手ごたえ、手で触って確かめられる結果を求める私たちの弱さがある。今日、主を信頼して「待つ」信仰をください。</p>
<p>15日 (土) 出エジプト 33章</p>	<p>「主は人がその友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた」(11節)。聖書の中でただ一人モーセだけが主と顔を合わせて語り合うことができた。しかしその分モーセが背負う責任は重く、人びとに理解してもらえない辛さがあったことだろう。聖書の神を信じて生きるのは簡単ではない。けれども真の友である主がこの地上を共に歩んでくださっている！</p>
<p>16日 (日) 出エジプト 34章</p>	<p>「モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏して、言った。『主よ、もし御好意を示してくださいますならば、主よ、わたしたちの中であって進んでください。確かにかたくなな民ですが、わたしたちの罪と過ちを赦し、わたしたちをあなたの嗣業として受け入れてください』」(8-9節)。モーセは40年間民をとりなし続けた。今わたしたちは、み霊にとりなされて日々を歩む。</p>